

平成30年度 浜松開誠館中学校・高等学校 学校評価(自己評価)

教育方針	愛情教育により、笑顔が弾ける徳育の開誠館
重点目標	①愛情教育で信頼される指導力を充実させる。
	②K-c o m p a s s ・7つの習慣Jを通して徳育教育活動の推進をする。
	③本校No.1の教職員を目指し、一人ひとりの存在感を示す。この行動を創立100周年の目標である西部地区私学No.1の実現へ繋げる。
	④「立ち止まり挨拶」100%実現のできる指導をする。
	⑤「ICT教育」と「グローバル教育」の安定・充実化を図り、成果発表の実現を目指す。

評価項目	目標	具体的な活動・取り組み	担当者
徳育指導	・「誠心・敬愛」を意識して、愛情を持って徳育教育で豊かな心を育てる。 ・生徒各自が目標を持ち、自ら未来を切り開く力を身に着ける。	・7つの習慣JのF T間の情報交換を行い、全教員の理解度を高め、徳育の指導を行う。 ・7つの習慣Jの「学び」から「実践」へと移行させるためにHR主任と連携して指導を行う。 ・7つの習慣Jを生徒により意識させるために、チャレンジ目標や7つの習慣Jに関する資料の掲示を増やす。	徳育課長
学習指導	・学習到達目標を設定し、年間を通した学習体制を確立する。 ・学習環境の整備を行い、全教員の授業力と質の向上を目指す。 ・ICTを活用し、新しい授業のあり方を推し進める	・教員の授業参観や教科会議での討論を活発に行う。 ・「授業の形」を徹底させる。 ・教授方法を工夫(アクティブラーニングやICT機器の積極的な活用を含む)し、授業改善等に積極的に取り組むよう、研究的雰囲気高める。	教務課長
進路指導	・中1から高3までの6年間を通して教員の連携を図る。 ・教員の進路指導力向上を図る。 ・高2から生徒及び保護者への進路相談を充実させる。	・高等学校の進路状況を踏まえて中学校にも情報を流し、「K-compass」の進路指導関係のプログラムへの提言なども行う。 ・「進路通信」や「Classi」を用いて教員に対して最新の情報や進路指導のポイントや事例を積極的に提供し、学年ごとの進路指導を充実させる。 ・進路指導の状況を、学年通信などを活用して生徒や保護者に情報提供を行う。	進路課長
人格品格指導	・教職員、生徒、全員の「立ち止まり挨拶」の実現を図る。 ・教職員全体が生活指導面の意識を高く持ち、連携して統一した指導を行う。	・立ち止まり挨拶啓蒙活動の実施 ・教職員、生徒へ生徒指導方針を提示する。 ・定期的に課の会合を行う。そして教員全体に情報を落とし込む。 ・課発行の日報によるタイムリーで統一した指導を実施する。 ・自転車利用者の交通安全意識を高揚し、交通ルールの遵守と交通マナーの向上を促進する。	人格品格指導課長
保健安全管理	・相談しやすい環境を確立する。 ・いじめの未然防止、早期発見に取り組む。 ・防災意識の向上を図る。	・いじめアンケートやHyper-QUを実施し、生徒が安心・安全に学校生活を送れるよう把握を行う。 ・教育相談に関する参考資料を1ヶ月に2度発行し、全体へアナウンスを行う。 ・関係者と連携のとれた教育相談活動を実施する。 ・避難・防犯訓練(年5回)を実施し、防災意識を高める。 ・防災頭巾、ヘルメットを各教室に必要数準備する。 ・各種防災グッズの保管場所を教員間で周知徹底する。	人格品格指導課長 (保健教育相談) 総務課長
保護者等への情報発信	・学年・部活動の情報発信機会の向上 ・保護者へ生徒の善行を連絡する	・HR主任から、毎月1回以上「クラス生徒の善行」を各家庭に電話やHR通信などで連絡する。 ・ホームページを活用して、本校の教育活動(学習・部活動・行事など)を随時発信していく。 ・広報イベント告知のツールを作成し、保護者や本校に関心のある方へ配布する。	中・高教頭 広報課長
地域住民との連携	・学校と地域の有機的な連携と協働体制を構築する。	・地域住民の方々を文化祭、体育大会等の学校行事の案内を出し、参加していただくことで、学校の様子を知っていただく。 ・ホームページを活用して、本校の教育活動(学習・部活動・行事など)を随時発信していく。	総務課長 広報課長
グローバル推進	・グローバルマインドとグローバルスキルの育成を今まで以上に行う。 ・検定試験の合格率向上	・英検指導法向上のために情報共有と改善を行い、指導体制を確立する。 ・土曜講座(グローバルマインド)やグローバル科目の指導において、各教職員がグローバルマインドセット教育の手法を学ばせる。 ・生徒のマインドセットの向上を行い、グローバルトピックに臨ませる。 ・各活動を通して伸ばしたスキル(異文化理解・クリティカルシンキング・プレゼンテーション)を活かすように各発表の機会を与える。	グローバル推進課長
スーパー文理推進	・国公立大学合格者2桁以上をコンスタントに維持できる体制を構築する。 ・生徒の進路意識を向上させる。 ・生徒の学習の実力を身につけさせる。	・外部進路説明会や研究会へ参加し、情報を得る。 ・スーパー文理クラス担任の情報共有のために定期的に会議を行う。 ・夜間開放と放課後自学の指導、運営を行う。 ・進路意識向上のための行事(夢ナビライブ参加)の計画・立案を行う。 ・長期休業中の講習会、勉強会合の計画・運営を行う。	スーパー文理推進課長

判定	自己評価	改善策	学校関係者評価委員による評価		
			自己評価は適切か	改善策は適切か	評価の理由、ご意見
B	・FT間の時間調整が難しく、情報交換の場がなかなか作れなかった。 ・生徒に対し、「学び」から「実践」へと取り組みを促したが、まだまだ温度差があり、今後も継続課題としたい。 ・7Jに関する校内掲示は増やすことができたのでよかったと思う。	・年度初めに事前に計画を立て、各学期の初めと終わりに情報を共有する場を設けて、自身の授業研鑽に努める。また、いつでも他の教員が行う授業が参観できるように検討する。 ・担任との連携を密にして、毎週の「チャレンジ」への取り組みをチェックしながら、実生活へ繋げるように励ます。 ・更に掲示物が増やせるよう、新しいポスターを作成する。 ・「チャレンジ」する内容を精選し、質の高い取り組みになるよう、事前授業の時間をしっかりと確保できるように検討する。 ・チャレンジカップは、今後徐々に参加クラスを増やし、生徒が自己肯定感や成功体験などを積める場を作っていく。	A	A	特に意見なし
B	・授業改善の一貫として2ヶ月に1回授業参観を行うことであったが、参観の状況が不十分であった。 ・年度初めに授業の形を生徒に提示し、徹底させるように先生方へも説明したが、学校評価(生徒)では昨年度より低下している。 ・ICT機器を活用した授業に関しては、より自然な形で取り組んでいる。学校評価(生徒)に関しても、比較的高い評価を得ている。	・授業改善のための授業参観は引き続き継続する。ただし、参観後の報告書の扱いなどの改善は必要である。 ・教科会議で授業改善に向けて積極的な話し合いを促す。合わせて、会議報告書へ具体的に話し合った内容などを記載を求める。 ・ICT機器を活用した授業については、放課後を使って活用事例(模擬授業)の共有会を引き続き行い、輪を大きくする。	A	A	授業は、先生方が同じレベルで統一して行う事を徹底して欲しい。
A	・前年度の振り返りから、進路指導体制の整備に取り組むことで一定の評価を得られた。この流れを断ち切らずにさらなる改善につなげる。 ・高3学年の評価が低下傾向であることに強い問題意識を持つ。逆に例年低下する高2の評価に上昇傾向が見られる。良い事例として次年度以降に活かせるようにしなければならない。 ・保護者の理解度を上げるため定期的な情報提供を年間を通じて実施した。その成果が数値として現れたと考える。	・一定水準の進路指導を維持する体制作りの継続とともに、より生徒に寄り添う指導を行う(生徒と関わる時間の確保が課題)。 ・学年通信を利用した情報発信、3年間の指導計画の提示等、生徒、保護者ともに先を見据えた進路活動ができるような働きかけを継続する。 ・生徒の成長を促すための“質の高い振り返り”が実現できるように進路課がリードして進める。中学から同様の取り組みを促し、中高一貫教育の強みとする。	A	A	チューター制度は子供のために良い。保護者にも行っていることを理解してもらおうと良い。一般受験生徒に対しても指導を強化すると良い。
A	・人品課教員の日々の立ち止まり挨拶啓蒙活動は実施できた。その結果、中学生87%・高校生80%が立ち止まり挨拶の意識が高く、昨年と比較し全体的にできるようになり、根付いてきている。 ・生徒指導方針の遂行は最後までできた。 ・週1で課の会合を開き、課発行の日報もうまく使いながら教員全体に情報を落とし込むことができた。 ・自転車乗車のルールやマナーを守る生徒が多くなり事故等は減った。	・立ち止まり挨拶をいつでも、誰にでも行うことの大切さを継続指導する。 ・問題行動の未然防止や生徒の成長の促しにつなげるためにも、さらなる情報発信と共有、対処法の共通認識を身に付けることができる質の高い会合を行う。	C	B	校内はきちんと出来ているが、先生の目が届かない場所での生徒の意識付けなどの指導をすべきである。近隣住民への挨拶は運動の生徒が主となって行ってくれるのと感じが良い。紺屋町から田町までの坂道で自転車のスピードが速く危険を感じるの、指導を徹底して欲しい。また、生徒は外部からよく観察されていることを教えてあげて欲しい。
B	・防災訓練を予定通り実施した。 ・物品によって保管場所が様々であった防災備蓄品をグラウンド北西に設置してある防災倉庫へ一箇所にまとめた。 ・教職員用ヘルメットが各教室・施設に必要な数設置してあるか確認し、個数の調整を行った。 ・いじめアンケート(年二回)やHyper-QUを実施し、生徒理解に努めることができた。	・有事の際の非常勤職員の所在、安否の確認について、不十分な点があるため、確認方法を今後の課題として検討する。 ・防災備蓄品の種類と量について検討する。 ・iPadを使用した「いじめアンケート」の実施を検討する。 ・アンケートの実施時期などを検討する。(第二回は高校3年生の家庭学習日目前であるため)	A	A	未来館での不審者侵入対策が不十分である。今後対策を考えて欲しい。
B	・ホームページに学校行事や学年活動を随時発信した。 ・広報イベント告知のツール(学校案内・ちらし等)を随時作成し、告知した。 ・保護者への連絡はクラッシーでの配信回数を増やし、学年通信の他イベントや教科に関する事なども連絡した。 ・各HR主任からクラス生徒の様子を保護者に対して電話や、クラッシーでの発信、学年通信、教室掲示や行事で来校された時に直接伝えた。 ・ホームページに学校行事や学年活動を随時発信することができたが、部活動によってブログ発信数に差が見られた。	・時期によりブログ記事の掲載回数に差が見られたので、取り上げる内容などを検討する。 ・部活動によってブログ記事の掲載に大きな差が見られたことは課題であり、一定のルールを定めるなどして継続的に掲載できるように検討する。 ・保護者への連絡は紙媒体の他クラッシーやきずなネットでのネット発信を多くし、行事などの連絡を早めに知らせる。 ・部活動の情報をホームページで定期的に配信する。	B	A	イベント後のHPへの掲載が遅い。部活動のブログに関しても掲載に関して徹底するべきである。保護者宛の情報はクラッシーで学年通信などを早く挙げることで、きずなネットも配信を多くすべきである。(子供から親に対しての情報は家庭ではほとんど入らないため)
B	・近隣地域の方々には、文化祭のバザーを毎年楽しみにして下さっている方もおり、満足する時間を過ごしていただくことができた。 ・体育大会では例年通り、近隣保育園の園児に参加してもらった。	・来校者が固定してしまっているため、新たな方にも来校していただけるよう、PR方法を検討する。 ・学校行事や教育活動で、ブログ記事の内容を「違った視点で学校や生徒の様子などを発信できるとより理解を深められると考えるので」検討する。	A	A	町内の住民に対しては回覧板などで案内があるので良かった。継続して行って欲しい。
B	・今年度、運営形態や新業務等大きな変化が多く、各業務における準備が不十分な事が多々みられた。 ・年を迫ることに、前年の反省を受け、ネイティブ教員が働きやすい環境作りが少しずつできているが、分業等で資料作成をしたり、ネイティブ教員会議で行事予定や趣旨、担任業についての業務趣旨統一を今後も心がける必要がある。	・報告・連絡・相談等の課内の情報共有態勢を再度見直し、より効果的な取り組みや、生徒に対する事前学習の精査をする。 ・課としてのゴールイメージを常時意識的に捉えた教育活動、研修への参加を積極的にしていく。 ・ネイティブ教員の効果的な参加とそれを可能にする意思疎通の環境作りを常に配慮する。	A	A	特に意見なし。
A	・毎週1回スーパー文理クラス担任で会議を持ち、縦の繋がりを意識し、時期に応じた指導の情報共有や相談を行い、スーパー文理コースの進路指導の体制作りを目指した。 ・外部進路説明会などに参加し、情報を精査し、生徒の進路指導に繋げた。 ・夜間開放や講習会・合宿を通して、学力向上への意識付けができた。	・国公立大学合格者を増やすために、低学年での英国教の3教科の強化を優先的に行う。 ・スーパー文理コースへの帰属意識を高め、生徒の学習に対する意欲の向上、教員の指導力向上を目指す。 ・日々の語りかけの中で、生徒の進路意識を向上させる。	B	B	夜間開放を行うのは良い。しかし、一部の生徒がうるさく教員がついて見守って欲しい。合宿での食事は冷めた者ばかりでマズイと聞いている。お金がかかっても温かくて良い者に改善して欲しい。